「新型コロナウイルスとの闘い、在外の学校現場から」

フランス　エベイユ補習授業校

目次

① 学校の規模や子どもたちの実態
② 現地の新型コロナウイルス事情
③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
④ 実際の取り組み
⑤ 苦労した（している）こと
⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
⑦ 今後への課題

①学校の規模や子どもたちの実態

- 本校は、幼稚部に「毎日クラス」「水曜クラス」「土曜クラス」があり、計77名の園児が通う。
- 小学部の補習校クラスは週1回土曜日に3時間授業を行っており、1年生から6年生までの生徒、計78名が通う。
- 1クラス当たりの人数は9～12名となる。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- フランスでは3月上旬頃より、加速度的な感染拡大を受け、3月12日のマクロン大統領の演説で、3月16日以降、全ての学校閉鎖を発表。また翌日、公共サービス及び、生活必需品以外の全ての商店（レストラン・映画館・カフェ等）の閉鎖を発表。
- 3月16日には、外出制限を発表。必要最低限以外の外出を禁止し、外出する際は、許可証持参を必須とする。
- 4月13日のマクロン大統領演説では、5月11日までの外出制限延期を発表。また、5月11日以降、託児所を含む、小中高校の段階的な再開を予定していることが発表された。
- 3月4月の2か月間で急速に広がったフランスでのコロナウィルス感染者数は17万人を超え、死者は2万5千人を超える。　（5月7日現在）

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯

- 3月16日以降の学校閉鎖、また、不要不急の外出規制、集会、会合の禁止の発表を受け、15日に予定していた卒園式を中止し、16日以降本校も閉鎖した。
- 5月20日現在も休校は続いており、再開については、現地校の様子を見ながら、判断していく予定。

④ 実際の取り組み

- 補習校では、3月下旬からオンライン授業を始めた。
- 4月一杯は各クラス40分授業だったが、5月より1時間半授業に拡大。
- 子供達は外に出られない生活が続く中、オンライン授業中、画面上で友人や教師と交流できる事にとても喜んだ。
- 多くの保護者達からは早くからのオンライン授業対応に感謝の言葉を頂いた一方、在宅ワークとの兼ね合い及び、通信環境の都合でオンライン授業に参加出来ない生徒や、オンライン授業自体の安全性を懸念する保護者もいた。
- また、オンライン授業方法の講習などを受けていない先生方にはかなりの負担があり、慣れない体制にストレスを感じる先生もいた。

⑤ 苦労した（している）こと

- 日本のカリキュラムをもとに同じ速度で授業を進めている当補習校では、4月より新学年がスタート。
- 今年度は教科書改訂の年度に当たった為、新しい教科書、教材の配送が遅延という事態の中、先生方は前年の教科書、教材を利用したり、他の補習校から教材に関する情報を共有して頂いたりとかなり苦労した。
- このような状況下では、教科書や教材のPDFでの配信体制の必要性を強く感じた。

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 2か月近くに及ぶ学校閉鎖と外出規制という制限の多い状況の中で、子供たちが日本語教育の環境と繋がっていられる為に、今何が出来るかを、理事・先生方と一丸になって前向きに考え、出来ることを1つずつ進め、結果早い段階からのオンライン授業への切り替えを行う事ができ、子供たちの笑顔に繋がったと思う。

⑦ 今後への課題

- オンライン授業の質を上げるためにも、まずは教員がオンライン授業が出来る環境をしっかり整える必要がある。
- 先生によっては家にPCがなく、タブレットやスマートフォーンを活用しているため、生徒全員の顔が同時に見れなかったり、様々な機能が上手くこなせない場合もあった。
- インターネット環境やツールなど物理的な環境を整えるとともに、教師のオンラインでの授業の仕方、ノウハウなどの勉強、トレーニング、他教員との情報共有も積極的に行う必要性を感じている。